

経営比較分析表（令和3年度決算）

愛知県 蟹江町

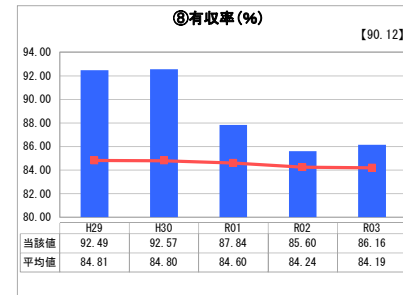
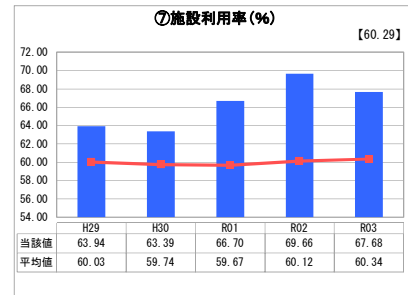
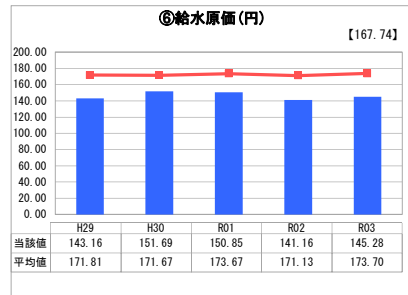
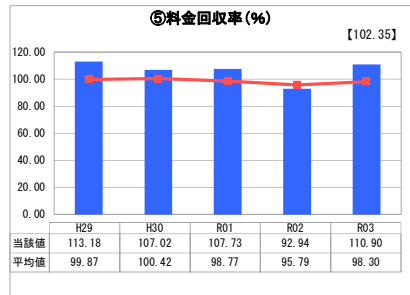
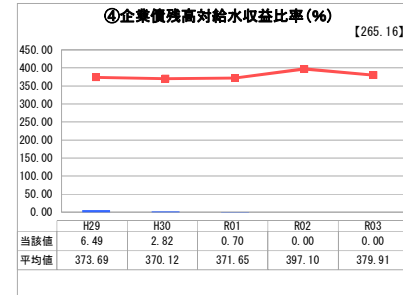
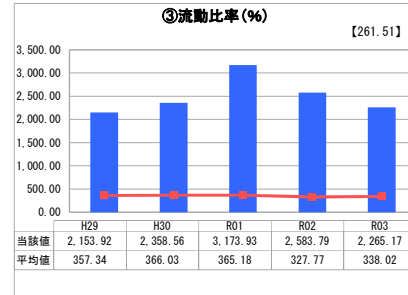
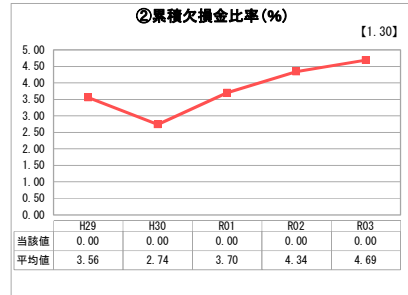
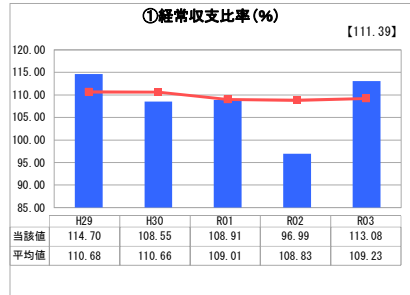
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	99.37	96.45	3,025	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
37,214	11.09	3,355.64
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
35,769	10.60	3,374.43

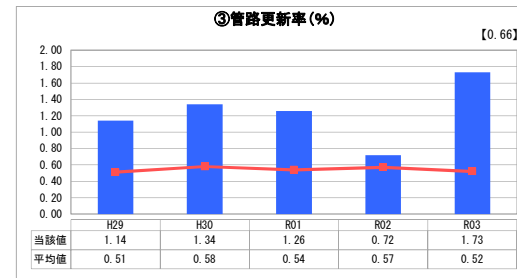
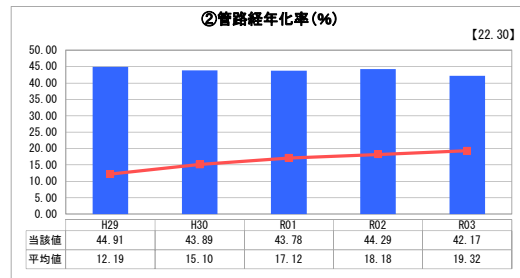
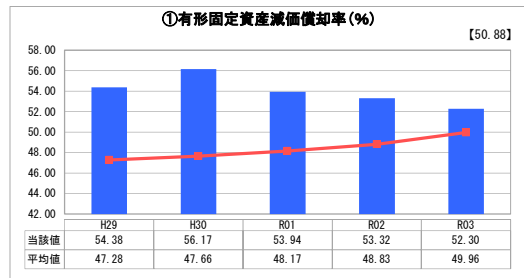
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①令和2年度は、コロナウイルス感染症対策による支援で基本料金を6ヶ月間減免した影響で、給水収益が減少しましたが、令和3年度は通常通りの徴収を行ったため、給水収益が回復し総収益が増加しました。黒字受水量の減少により受水費は減少しましたが、路面復旧費や材料費、委託料が増加したため、総費用が増加しました。総収益の増加額が総費用の増加額を上回ったため、経常収支比率が上昇し黒字化しました。現金・預金が減少しており、令和3年度は通常通り料金の徴収を行ったものの、令和2年度の影響により流動資産は減少しています。流動負債は、新たな企業債の借り入れもなく償還も完了しており、大きな金額推移もありません。短期的な債務に対する支払能力は担保されているといえます。②企業債残高対給水収益比率は、新たな起債もなく償還も完了しているため、類似団体・全国平均より低い数値で推移していますが、今後、老朽化資産の更新、管路の耐震化等、多額の投資が必要となるため、将来負担を考慮した適切な起債を行ってまいります。③料金回収率は、100%を超え、④給水原価も平均より低い水準で推移しており、給水費用が給水収益で賄われていることを示しています。⑤配水管漏水修繕により無収水量が減少しましたが、総配水量の減少が大きく、施設利用率が低下しました。⑥有収率は数値となり、類似団体平均値より高い数値を維持しているものの、今後人口減少社会へと移行していく中、水道施設利用率は低下し、料金収入も減少が予想されるため、施設のダウンサイジングや広域化などの検討を進め、健全で安定した事業運営が持続できるように経営基盤の安定化を図っていく必要があります。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率ともに類似団体及び全国平均より高い水準にあることから、施設の老朽化が進んでいるといえます。③管路更新率も類似団体及び全国平均より高い水準で推移しており、計画的に管路の更新を進めていると言えますが、依然、経年化している管路が多く存在している状況です。限られた財源・人員のなか、計画的に管路の更新を行っていくため、老朽施設の更新とあわせて資産規模の適正化に努め、現状に即した投資を合理的に進めていく必要があります。

全体総括

現時点では、経営の健全性、効率性は概ね確保されています。しかし今後、施設・設備の老朽化更新、管路の整備計画に多額の投資が必要となりますが、給水人口の減少、節水機器の普及、節水意識の向上などにより給水収益の減少が考えられるため、今後の経営は厳しい環境になっていくことが予想されます。令和元年度に策定した水道ビジョン、経営戦略を町の総合計画や社会情勢を踏まえて、適宜・評価・改善・検証等を行い、安全な水道の維持・強靱な水道の構築・持続可能な水道を目指してまいります。また、近隣市町村と広域連携の検討を進めて、現状の把握や課題を共有し、水道事業の基盤強化に努めてまいります。